

議員派遣行政視察報告書

- ・視察期間 平成26年1月22日(水)～平成26年1月23日(木) 1泊2日
- ・視察先 一宮市 市立総合体育館について
市立中央図書館について
美濃市 美濃和紙を活かしたまちづくりについて
- ・視察議員 白井啓一
大原智
山田ますと

※上記の順に行政視察報告書を掲載しています。

行政視察報告書

議員氏名 白 井 啓 一

調査の期間 平成 26 年（2014 年）1 月 22 日（水）～23 日（木）

調査先及び 調査事項	愛知県一宮市	総合体育館について 中央図書館について
	岐阜県美濃市	伝統産業（美濃和紙）を活かしたまちづくりについて ～観光振興と魅力あるまちづくり～

□一宮市 総合体育館について

時間の関係で現地視察が無理になり、スライド写真等を通しての説明になり現地を見れなかったのが残念でありました。西宮市も体育館の移転建て替えの計画がある中、中途半端な事はしたくないと思っています。

一宮市では合併に伴い、広域大会の開催地としての要望もあり、新たな体育館の建設が望まれていました。体育館建設に向け、屋内競技団体の代表者中心にした基本構想検討委員会を立ち上げ 2 年間かけて「基本構想」を取りまとめ、更に学識経験者、議会関係者、新成人代表、地区、各界の方を委員として整備や機能について検討を進め、「一宮市総合体育館基本計画」の策定を行っている。建設財源については、国からの補助金、合併特例債、積立金を活用。

平成 18 年度に基本設計が出来、平成 23 年度に体育館の竣工式を行っています。基本構想の中には、豪華な建物を欲せず、室内競技場のフロア面積を最大限に確保する事を最重要課題とするとあります。

現在、全国大会、東海大会、市民大会と幅広く使用されているようです。

西宮市においても、体育館の移転建て替えをする場合、しっかりとした基本理念をつくり、基本計画では特に具体的な整備方針を持たせてほしいと思います。

□一宮市 中央図書館について

駅前ビルの中に、中央図書館・子育て支援センター・市民活動支援センター・ビジネス支援センター・観光案内所などが配置され、利便性の高い施設になっています。

図書館は、5階・6階・7階の3フロアがエリアになって、5階は児童と親子を、6階と7階は一般利用者を対象にし、図書館の入口を5階と6階にもうけ、5階を児童向けフロアとして特化し、子どもの安全に配慮しています。

特に本などにICタグを貼付し、自動貸出機や自動化書庫の導入により貸出し時間の短縮など利用者の利便性向上を図っています。特別に見せて頂いた自動化書庫には驚きました。

読書離れが言われる中、児童書エリアでは、絵本・紙芝居・児童書を取りそろえ、子どもや親子が気兼ねなく本と親しめる空間を広く取っています。また、だれもが使いやすく快適に利用できるように、ユニバーサルデザインの考えに基づいた空間づくりにしており、環境への負荷軽減を考慮し、書架照明や閲覧機のライトはLED照明を使用している。駅前立地という条件から今後利用される方が増えるのではないかと思います。

西宮市では中央図書館が駐車が出来なくて非常に使いにくいとよく耳にします。何か対策があればと思います。

□美濃市 伝統産業（美濃和紙）を活かしたまちづくりについて

美濃和紙の里会館を視察しました。手すき和紙の振興と後継者育成を目的に建設され、和紙職人との交流の場ともなっています。現在はどのような産地があるのか全国54産地の代表的な和紙も紹介しています。その中に名塩和紙も展示されていました。

様々な形に変わる和紙を紹介し多くの作品を展示して、美濃和紙の魅力を多くの方に知ってもらうために企画展も開催しています。市内の小中学校の卒業証書を自分で漉いた和紙を使うようにしています。

後継者育成にも力を入れており、基本的には師匠が弟子を取って技術を継承しますが、美濃和紙づくりの原料処理、紙すき、乾燥、選別などの工程を一通り学ぶ「美濃・手すき和紙基礎スクール」を受講してもらい、その後、職人工房への弟子入りを目指すようになっています。

美濃和紙あかりアート館を視察しました。

美濃和紙あかりアート展は、昨年で20回になるそうであります。美濃和紙を使用したあかりのオブジェを一般・小中学生の両部門で全国公募し「うだつの上がる町並み」に2日間、野外展示し審査をするそうです。毎年、あかりアート展を楽しみに全国各地から多くの方が来られるそうであります。作品の一部があかりアート館に展示されており拝見させて頂きましたが、美濃和紙の持つ柔らかさや美しさ、そしてほんのりとした温かさを感じました。

西宮市でも名塩和紙を活かしたイベントができないかをつくづく感じました。

行政視察報告書

議員氏名 大原 智

調査の期間

平成26年（2014年）1月22日（水）～23日（木）

調査先及び調査事項

- ・一宮市

- ①市立総合体育館について

- ②中央図書館の活用について

- ・美濃市

- 美濃和紙を活かしたまちづくりについて

① 一宮市 市立総合体育館について

【取り組みの概要】

一宮市は、平成 17 年 4 月に一宮市、尾西市、木曾川町の合併により、中核市としての機能充実を図る必要に迫られていたが、その中でも、市民のための社会体育施設は、昭和 38 年に建設された産業体育館の老朽化が著しく、新たな体育館の建設が、課題であった。

そのため、新市建設計画の重要施策と位置づけられ、平成 18 年 6 月より、独立行政法人都市再生機構に依頼して、建設事業がスタート、晴れて、平成 23 年 2 月 26 日に、一宮市総合体育館は完成した。

基本理念としては、競技場面積を最大限確保すること目指し、観戦場所を確保するよりも、他都市に例を見ない競技スペース（主競技場 1 棟、副競技場 2 棟）を有することで、最大の特色を出した。

具体的には、3 棟を合わせて、7,020 m²と、国内有数の施設となっている。防災拠点としての機能も備えており、災害時の収容想定人数は、1,600 人、備蓄倉庫を始め、防災設備が整備されている。

【感想及び意見】

通常、新施設を造ろうと思えば、色々な機能を詰め込みたくなるものだが、基本構想として、市民がスポーツのできる場所を提供するという理念に徹していることが、やはり、大きな特色と言えらると思う。

そのため、3 棟ともフロアはフローリングであり（武道大会のときは、簡易の畳が敷き詰められるそうだが）、芸能イベントなどを行うための設備や、また、観客を収容するスペースなどはあまり考慮されていない。

さらに、立地場所においても、市内の中心地からはかなり離れた場所にあり、そのことで、渋滞などのクレームが起きたことはないそうである。

清掃の簡便さや、警備の体制強化をする必要がなく、管理運営のコストを削減する方法としては、ひとつの考え方でもあると思う。

本市の場合は、予定されている場所が、アサヒ跡地という市内の中心部であり、直接の参考となるものではないが、整備に当たっては、理念を明確にすることは、絶対に必要なことである。

収入を上げることについては、かなり知恵が使われており、施設のネーミングライツ、自動販売機の賃貸料、喫茶室の売り上げ収入など、大いに

参考としてもらいたい。

特筆すべきは、指定管理に対する考え方である。

安易に仮想運営額を算定して、民間に任せるのではなく、まず、3年間、市の直営を経験したことで、必要な運営額が明確にすることができた。その結果は、当初の見積額より、安く運営できたという。

いよいよ平成26年度から指定管理制度を導入しようと言われていたが、この考え方は、本市においても、必ず取り入れてもらいたいと思う。

② 一宮市 中央図書館の活用について

【取り組みの概要】

市制90周年の記念事業として、老朽化していた尾張一宮駅前ビルの建て替えが、平成24年に行われた。

駅前ビルは、都市の玄関として、また「一宮の新しい顔」の理念の下、市民活動・文化活動の拠点として、7階建ての建物のうち、フロア3階分を使って、中央図書館が配置された。

ここでは、駅前立地という特性を活かし、講座・講演会・展示会などにぎわいとふれあいの場、生涯学習の場としての機会を提供することを目指している。

実際に、駅前という点を考慮し、開館時間は、午前9時から午後9時、年間の開館日数は、320日と利便性の向上を図っている。

3フロアの内訳としては、5階を児童と親子に特化し、6、7階を一般利用者の対象としている。

入り口は、5、6階のみとし、子供の安全にも配慮されている。国内で、あまり例を見ない設備としては、屋上に30万冊収納可能な自動化書庫が設置されており、コンピューター操作により、職員の省力化と市民の待ち時間を短縮させることができている。

【感想及び意見】

やはり、駅前ビルにあるという好条件が、利用者数の増加を後押ししており、当初の想定を超えた1日利用者の平均が3600人を数えるという賑わいを見せている。

本市においても、ぜひ検討してもらいたい点を列挙すると、次の通りである。

1、閉館時間の延長検討。

ただし、これはさすがに一宮図書館も直営では対応できず、窓口業務だけは、業務委託となっているので、一概に職員の増員は難しいようだ。

2、自動化の推進。

一宮では、窓口対応だけではなく、自動貸出機を導入し、市民が自分で貸出手続きを行い、職員の負担を減らしている。

また、自動化書庫のない本市では、蔵書の保管場所まで人間が取りに行かねばならず、待ち時間の増加と、職員の負担となっている。

その他、本市では、書籍のICタグ管理が遅れており、出入口での自動監視機が、中央、北口、鳴尾の3ヶ所しかなく、このことが、幽霊図書が発生する原因とも考えられる。(一宮では、全図書館が整備済み。)

3、市民サービスへの配慮。

一宮図書館は、フロアが5階以上ということを考慮し、時間外の返却ボックスを、1階に設置しており、サービスの向上を図っている。

これは、北口でも検討できるのではないだろうか。

③ 美濃市 美濃和紙を活かしたまちづくりについて

【取り組みの概要】

美濃市は、1300年前も昔から高い紙すきの技術で、全国に知られている町であったが、時代の流れとともに、にぎわいは薄れていった。

そこで、外部の識者等のアドバイスを入れ、伝統産業である、美濃和紙のよさを見直し、観光の武器として展開し、とくに20年の歴史を刻んだ「美濃和紙あかりアート展」は、今や全国から観光客を呼び寄せるイベントとなり、開催期間の2日間で、市民の5倍である10万人が集う成果をもたらしている。

常設の観光スポットとしては、市内のまち歩きコースとして、江戸時代の豪商の繁栄が学べる「旧今井家住宅・美濃資料館」(有名なうだつも見られる)、あかりアート展を再現した「美濃和紙あかりアート館」、そして、美濃手すき和紙の振興と後継者育成の現場が体験できる「美濃和紙の里会館」の3館を整備し、リピーターを増やす努力をしている。

特に和紙の里会館では、市内の小中学校の卒業生が、自分で漉いた紙でもって卒業証書を作成するため、全員が和紙作りを体験する取り組みが行われている。

【感想及び意見】

美濃和紙に限ったことではないが、いまや伝統産業を守ることで1番の課題は、やはり人材不足に尽きる。

美濃市においては、まず、人材を育てる師匠に、高齢化などさまざまな理由により、その余裕がない。

そして、弟子となろうとしても、市内に住宅がない。その結果、他市から注文をしてくれようとしても、応えられる状況にない。そこで、さらに廃れるという悪循環が生まれていく。

しかし、この状況を転換するために、まず、この武器を観光資源として再発見する行動が、功を奏した。

先に書いた通り、「あかりアート展」は、大成功を収めている。

本市においても、まちづくりという観点からの有識者や市民の声に、もう1度耳を傾けてもらいたい。

観光常設コースの創設、また、若者の就労という視点からの施策等、できることはたくさんある。

たとえば、美濃市において取り組んでいる施策は、市からの後継者育成奨励金制度の導入、また、将来を見越した形で、全市の小中学校生の卒業証書製作、和紙に特化をしているが、産業そのものを誰でもが学べる場作り（和紙の里会館、創造交流館など）、どれもが、本市においても導入できることばかりである。

しっかりと、提案してまいりたい。

行政視察報告書

氏名 山田 ますと

調査期間：平成26年（2014年）1月22日（水）～1月23日（木）

調査先及び調査事項

一宮市	市立総合体育館	1/22(水)	13:00～14:10
一宮市	市立中央図書館	1/22(水)	14:10～15:30
美濃市	美濃和紙を活かしたまちづくり	1/23(木)	09:20～13:30

報告及び所感等

1月22日 一宮市総合体育館について



施設規模は、3つのアリーナ総面積7020㎡は県内最大規模。

社会人リーグ、団体を招へいし、多くの市民にスポーツ競技を観戦してもらうこと。また、国際大会などの公式競技に対応が可能な施設をコンセプトに設計。

【類似施設の規模を参考として以下に記載】

国立代々木屋内総合運動場メイン 4,000㎡（全体 5,300㎡）

名古屋市総合体育館メイン 3,646㎡（全体 6,111㎡）

横浜アリーナ 8,000㎡

さいたまスーパーアリーナ 6,800㎡

大阪城国際文化スポーツホール 3,500㎡

【施設概要紹介】

メインアリーナ：3,261.08m²(有効床 68m×46m=3,128m²、天井高 15m)

観客席：1994 席 + 車椅子 8 席

主な種目の公式大会での最大コート数

バレーボール (6人制・9人制女子)	4(1)
バレーボール (9人制男子)	3(1)
バスケットボール	3(1)
卓球	24(8)
テニス	3(1)

いちい信金アリーナ A

アリーナ：1,892.01m²(有効床 46m×37m=1,702m²、天井高 12.6m)

観客席：223 席 + 車椅子 2 席

主な種目の公式大会での最大コート数

バレーボール (6人制・9人制女子)	2(1)
バレーボール (9人制男子)	2(1)
バスケットボール	2(1)
卓球	15(7)
テニス	2(1)

いちい信金アリーナ B

アリーナ：1,867.66m²(有効床 46m×37m=1,702m²、天井高 12.6m)

観客席：172 席 + 車椅子 2 席

主な種目の公式大会での最大コート数

バレーボール (6人制・9人制女子)	2(1)
バレーボール (9人制男子)	2(1)
バスケットボール	2(1)
卓球	15(7)
テニス	2(1)

武道館機能は移動式の畳を導入して対応。

駐車場は、常設 500 台、臨時駐車場 500 台、合計 1000 台収容可能。

【防災機能】

避難収容人数は 1600 人。雨水利用による 3 日分の洗浄水貯留槽整備。

【財源確保 ネーミングライツ（命名権）を採用】

平成 23 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日（5 年間）

メインアリーナは、300 万/年額*5 年間

アリーナ A B とも 100 万/年額*5 年間

【指定管理者制度導入の方針について】

総合体育館は、直営からスタートさせています。

その理由は、オープンから 3 年は直営でスタートさせることで、経費がどれくらいかかるかが算出できる。指定管理の導入については、シナリオがはっきりしており、経費削減を掲げ、達成の手段として指定管理者制度を導入している。

【事業費について】

国の補助金や合併特例債をフルに活用

70 億 8,699 万 7 千円（全体事業費）建設工事費 63 億 167 万円

財源内訳

国庫補助金 33 億 3,000 万円、合併特例債 21 億 7,070 万円（70%が交付税で補填）基金繰入 15 億 6,898 万 8 千円、一般財源 1,730 万 9 千円。

国からの補助金を引き出すため「公園用地を活用」。

建設積立金をしてきた。

【所感・本市への提案要望等】

国際的競技や大会を行うためにも、1 アリーナ最低でも 3,200 m²以上が必要。同時開催を行えるメリットがあり、競技時間が短縮できるとのこと。

ネーミングライツの採用を検討すること。

雨水貯留槽や災害時の避難収容を想定した設計をすること。

指定管理者導入への考え方について参考にすること。

財源確保(国庫補助金)についてはフルに活用すること。

等々、参考になる取り組みが多くありました。

アサヒビール跡地 3.8 ヘクタールの中で、体育館に予定されている 1 ヘクタールの土地にどのような建設を計画するのはまだ、これからですが、議会としてしっかりと提案してまいります。

1月22日 一宮市立中央図書館

「子ども読書のまち」を宣言（平成26年1月10日）

将来を担う子どもたちの心豊かな成長を促す読書環境づくりと、
子どもの時から読書に親しむことで、読書を基盤とした人づくり、街づくりを
進めることを願い「子ども読書のまち宣言」を発表。

【特徴】

駅前に中央図書館がある自治体は全国でも少ないとのことでした。

開館時間は朝9時から夜9時まで。

年間320日の開館で利便性向上。

来館者数1日平均3600人。

ビジネス支援コーナー、障がい者サービス、多文化サービス（英語の話せるスタッフを配置）

屋上に、約440㎡の自動化書庫を整備しており、約30万冊の資料が収納可能

【運営方式について一部業務委託】

基本は直営ですが、開館日数の増加や開館時間延長に対応するために、カウンター業務など図書館運営業務の一部はプロポーザルで選定した業者に委託している。

【施設概要】

延べ床面積：約6,700㎡ 収蔵可能点数60万点 蔵書点数46万点

<5階児童書エリア1780㎡>

幼児向け絵本から、児童向けの図書まで、幅広く配置。

児童調べ学習室36席、おはなしの部屋、視聴覚エリア、授乳室、児童用トイレを設けている。

コンセプトは、子ども同士で、親子で安心安全に利用できる空間。

<6階一般書・視聴覚エリア2500㎡>

CD・DVDコーナー、新聞コーナー、雑誌コーナー、AVブース、ティーンズコーナー、よみものや小説などのコーナーを設置。

対面朗読室、拡大読書器、車いす用閲覧席、学習室160席、多目的室、休憩室、多目的トイレを設けている。

< 7階一般書・参考図書エリア 1780 m²>

辞典、郷土資料などのレファレンス図書を設置。

ビジネス支援コーナー、インターネットブース、閲覧席、持ち込みパソコン室などを設けている。

【所感・本市への提案要望等】

一宮市様では、駅前立地の利便性をフルに活用して、利用者の立場に立った運営をしています。来館時間帯(9-21)や開館日数(320日)を拡充するために、カウンター業務など図書館運營業務の一部はプロポーザルで選定した業者に委託しています。

時間延長や開館日数の拡充を検討し必要ならば業者委託も検討すること。

西宮市立中央図書館は、館内にも周辺地域にも駐車場が整備されておらず、駅からも徒歩で圏内ではありません。「中央図書館」の場所を見直し、JR西宮駅前や阪神西宮駅前などの立地を活かした場所への移転整備を検討してもらいたい。

1月23日 美濃市「美濃和紙を活かしたまちづくりについて」

小さくてもキラリと光るオンリーワンのまち美濃市

【美濃和紙の里会館を視察】

美濃和紙について、

教科書やノート、それから新聞紙や雑誌などのように、よく見かける紙のほとんどは洋紙です。この洋紙は「パルプ」と呼ばれる、木の繊維をくいだいたものを材料にして機械で作る紙です。

和紙というのは主に「楮(コウゾ)」「三桮(ミツマタ)」「雁皮(ガンピ)」という木の皮の繊維を材料にして作る紙のことで、「楮」には高級な障子紙などによく使われ、「三桮」はお札などに使われています。

美濃市では、「美濃紙(ミノガミ)」というとても有名な和紙が、何百年も昔から今にいたるまで作り続けています。

一番盛んに作られていたころは、美濃市周辺の村々でも、約5,000戸の紙すきの家がありました。しかし、現在では30戸弱が残っているだけです。

(注釈：美濃和紙の里館より案内)

【美濃和紙の里館について】

平成6年、市制40周年事業としてオープン。

目的は、美濃和紙の振興と後継者育成。

1300年の歴史を持つ美濃和紙をはじめ、全国の和紙産地54産地を紹介。

【美濃和紙振興への取り組み】

市内小学校の卒業証書を自分で漉いた和紙を使うようにしている。

美濃和紙手漉き技術の継承は、師匠が弟子をとって技術を継承することが基本です。そのため、美濃市は、後継者育成奨励金として5万円/月額*2年間支給することで、弟子の育成を支援している。

職人は、現在30戸弱。30代から40代が50% 70代から80代が50%。
紙漉き職人の子どもが家業を引き継がない方が多く、技術の継承が課題である。

【美濃和紙あかりアート館】

美濃和紙あかりアート展を企画開催

1,300年の歴史を誇る「美濃和紙」と市の重要伝統的建造物群保存地区である【うだつの上がる町並み】の活性化とブランド化を目的に、市制40周年事業として開催。(本年で20周年)

作品の出展も撤収もすべて、出展者が持ち込み、持ち帰りを行うルールにしており、そのため、出展者の多くは美濃市内へ宿泊するようになっています。

美濃和紙を使用したあかりアートを一般・小中学生の両部門で全国公募し「うだつの上がる町並み」に展示し審査が行なわれます。

江戸時代からの情緒を残す町並みと美濃和紙を活かしたあかりアートのコラボは、美濃和紙の魅力を高める効果的なイベントとなっています。

【所感・本市への提案要望等】

市内小学校の卒業証書を自分で漉いた和紙を使っていますが、西宮市でも名塩和紙の技術の継承や後継者の育成などの視点から、卒業証書を名塩和紙で作るとか、体験学習などの機会を設けるなど検討してください。

美濃市では、後継者育成奨励金として5万円/月額*2年間支給していますが、このような助成事業を参考にして伝統や文化の継承に繋がるような取り組みを検討してください。

西宮市では、船坂ビエンナーレが開催されていますが、名塩和紙を活かした作品展示を企画することを要望します。

また、市民文化祭に合わせて、小学生や市民が参加できる名塩和紙をいかした作品展示の企画などを検討してください。